

事業番号 2022 - 文科 - 21 - 0215

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

事業名	人文学・社会科学を軸とした学術知統合プロジェクト			担当部局	研究振興局	作成責任者			
事業開始年度	令和2年度	事業終了 (予定) 年度	令和4年度	担当課室	振興企画課	学術企画室長 河村 雅之			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	統合イノベーション戦略2021(令和3年6月18日閣議決定) 第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	現状において解決策が探究されていない、あるいは未だ顕在化していない社会的課題を見据えて、未来社会の構想のために、我が国の人文科学・社会科学の知がどのように貢献でき、何をなし得るかを考察するプロセスの体系化を目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	第6期科学技術・イノベーション基本計画等で人文科学・社会科学の重要性が指摘される中、30～50年先の国際社会や我が国社会を見据えた長期的な視座が必要なもので、かつ、人文科学・社会科学が中心となって取り組むことが適当と考えられる諸問題(以下「大きなテーマ」という。)の下、人文科学・社会科学の研究者が中心となって、自然科学の研究者はもとより、産業界や市民社会などの多様なステークホルダーが知見を寄せ合って研究課題及び研究チームを創り上げていくための環境を整備し、大きなテーマごとに、毎年度、研究課題を設定するとともに、当該研究課題に対応した戦略的・実効的な研究チームを構築する。また、このことを通じて、未来社会の構想のために、我が国の人文科学・社会科学の知がどのように貢献でき、何をなし得るかを考察するプロセスを体系化する。								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	4	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	▲4	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	28	36	32	0		
	執行額	0	26	34					
	執行率(%)	-	93%	94%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	-	81%	106%						
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	科学技術試験研究委託費	30	0	令和4年度が事業最終年度のため。					
	委員等旅費	0.9	0						
	諸謝金	0.3	0						
	旅費	0.3	0						
	計	32	0						
活動内容 (アクティビティ)	人文学・社会科学の研究者を軸に研究課題・研究チームを共創する場を提供し、研究課題・研究チームの構築を推進する。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	研究チームを構築するためのワークショップ等の実施	研究チームを構築するためのワークショップ等を行ったテーマ数	活動実績	件	-	3	6	-	-
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	委託事業費/研究チームを構築するためのワークショップ等を行ったテーマ数		単位当たり コスト	百万円	-	9	6	10	
			計算式	委託事業費/テーマ数	-	26百万円/3	34百万円/6	30百万円/3	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 3年度	目標最終年度 4年度
	令和3年度までに構築した研究チームによる研究を令和4年度までに開始	構築した研究チームに対して実際に研究を開始したチームの割合	成果実績	%	-	0	30	30	-
			目標値	%	-	0	30	30	50
			達成度	%	-	-	100	100	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	実績報告書及び文部科学省調べ								

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度	
	1テーマ当たり1つの国内外 における研究者間のネット ワークを令和4年度までに 構築	1テーマ当たりの国内外に における研究者間のネット ワークの構築数		成果実績	-	0	3	3	-
				目標値	-	0	3	3	3
				達成度	-	-	100	100	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	実績報告書及び文部科学省調べ								
政策 評価 書 URL 該当箇所	政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化							
	施策	8-2 基礎研究・学術研究の振興	政策評価書 URL	<a href="https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-04.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-04.pdf</a>					
			達成目標1						
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
国費投入の 必要性	項目	評価	評価に関する説明						
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、第6期科学技術・イノベーション基本計画等で人文学・社会科学の重要性が指摘される中、未来社会の構想のために、ステークホルダーとともに、我が国の人文学・社会科学の知がどのように貢献でき、何をなし得るかを考察するプロセスの体系化を目的とするものであり、国民や社会のニーズを的確に反映している。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	多様なステークホルダーも関与する形で、知見を寄せ合って、社会課題に向き合うための考察のプロセスを体系化するための環境整備であり、国が積極的に実施する必要がある。						
事業の 効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	未来社会の構想のために、我が国の人文学・社会科学の知がどのように貢献できるかを本事業で考察し、そのための研究体制の構築に貢献することで、挑戦性の高い学術研究の振興に寄与するものであり、優先度の高い事業である。						
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	未来社会の構想のために、我が国の人文学・社会科学の知がどのように貢献できるかを本事業で考察し、そのための研究体制の構築に貢献することで、挑戦性の高い学術研究の振興に寄与するものであり、優先度の高い事業である。						
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無							
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-						
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	委託要項等において真に必要な費目・用途を経費として計上するよう定めている。						
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-						
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	委託要項等において真に必要な費目・用途を経費として計上するよう定めている。						
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	ワークショップやシンポジウムのオンライン開催等により、コスト削減や効率化に努めている。							
事業の 有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	令和3年度においても研究チームを構築するきっかけを作るワークショップ等を行った。これらの取組を踏まえ、令和3年度に研究チームが構築された。本事業では3つの大きなテーマ(「将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方」、「分断社会の超克」、「新たな人類社会を形成する価値の創造」)毎に研究課題を設定し、当該研究課題に対応した研究チームを構築することを目指すため、テーマ毎にワークショップ等を開催し、その中から研究者間のネットワークが構築されることと、研究チームが研究を開始することをアウトカムとして設定した。						
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	未来社会の構想のために、我が国の人文学・社会科学の知がどのように貢献できるかを考察するプロセスを体系化するものであり、実効性の高い事業である。						
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	令和3年度は、前年度に引き続き3つの大きなテーマ(「将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方」、「分断社会の超克」、「新たな人類社会を形成する価値の創造」)に対応したワークショップ等を開催した。						
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-						

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				-
	事業番号		事業名		
点検・改善結果	点検結果	本事業は、大きなテーマごとに、毎年度、研究課題を設定するとともに、当該研究課題に対応した戦略的かつ実効的な研究チームを構築することで、未来社会を構想のために、我が国の人文科学・社会科学の知がどのように貢献でき、何をなし得るかを考察するプロセスを体系化することを目指すものである。費目・使途について、事業目的に即し真に必要なものに限定するなど、効率的に実施している。			
	改善の方向性	引き続き進捗状況・取組実績の把握等を通じ、効率的な実施に努める。特に、令和3年度の事業実施状況を踏まえ、研究チームの構築に向けた取組を推進する。			
<b>外部有識者の所見</b>					
外部有識者による点検対象外					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
終了予定	この事業は、当初計画通り令和4年度をもって完了することとしている。 本事業により得られた成果については適切に活用すること。				
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
予定終了通り	当該事業は、当初計画通り令和4年度をもって終了するが、令和3年度に外部有識者から指摘があった事業の成果指標・成果目標等について、事業の成果等をより適切に把握する観点から、引き続き検証・検討を行っていく。				
<b>備考</b>					
<b>関連する過去のレビューシートの実業番号</b>					
平成23年度	-				
平成24年度	-				
平成25年度	-				
平成26年度	-				
平成27年度	-				
平成28年度	-				
平成29年度	-				
平成30年度	-				
令和元年度	文部科学省	-	新32	-	0017
令和2年度	文部科学省		新02		0020
令和3年度	2021	文科	20		0217

